



C.O 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間：2016 年 3 月 1 日～3 月 10 日（10 日間）

I. プログラムについて

今回の日本語指導実習プログラムは台湾の静宜大学で実際に教壇に立ち日本語を教える、というものです。授業の時間を丸々任されます。自分の実習がないときは他の先生の授業を見学することもでき、教案づくり用にパソコンの使える部屋も貸していただきました。現地へ向かう一か月以上前から静宜大学の指導担当である先生方と自分たちでメールのやり取りをし、教案づくりをします。授業に関して静宜大学の先生方は基本的に「あなたの思った通りでやりなさい」と言ってくださいました。授業以外にも現地の学生との交流もあります。現地の学生は本当にみんな親切で日本語がとても上手です。また話そうという意識もすごく高いので刺激にもなりました。日本人と似てすこしシャイな一面もあり、とても親しみやすかったです。

II. 参加希望者へのアドバイス

今回私は後悔していることがあります。それは実習に行ってから話ではなく行くまでの時間の過ごし方です。このプログラムに参加することが正式に決まってから実習に行くまで約三か月という時間がありました。12 月の中旬に決まり、行くのは 3 月と考えると、とても時間があるように感じます。実際約三か月と考えると時間がたっぷりあります。この三か月の間に台湾の歴史について学んだり、担当する実習の教案を作ったりすることになります。12 月の実習参加が決まった当初は、まだ教案なんて考えなくていいやと考えていました。1 月に入っても試験あり手を付けていませんでした。2 月になるとテストも全部終わっていましたが、あと 1 か月もあるしまだ本気でやらないでいいと本腰をいれませんでした。結果、やっと 2 月の中旬から先生に急かされるように教案づくりを始めました。後回しに、後回しにという性格の人は本当に気を付けたほうがいいです。これは本当に後悔しています。時間がなくて焦りながら作った教案は全く面白味がありません。頭の中で実際自分が授業をしているのを想像しながら作っていないので、漠然とした授業の流れを組み立てられたとしても、いざ模擬授業を試みようとなった時に言葉が何も出てきませんでした。これは実習に行く 4 日前のことです。現地に行ってから「日本でももっとちゃんと教案考えておくべきだった」と何回言ったか分かりません。人に教えるという行為がどれだけ大変でどれだけ労力を要するかを今回痛感しました。学習面の話だけになってしまいましたが、これだけ打ちのめされた私でもなんとかやっていけたのは静宜大学の学生のおかげだと思います。授業でも積極的に発言してくれる学生や、毎日夜ご飯に誘ってくれる学生もいました。本当にあたたかい良い環境で実習を行うことができると思います。このプログラムに参加したいと思う方がもしいらっしゃれば今回の私の話をぜひ参考にさせていただきたいです。



S.N 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間：2016 年 3 月 1 日～3 月 10 日（10 日間）

I. プログラムについて

台湾に行く前から丸山先生の指導の下、台湾についての知識を確認したり、静宜大学の担当の先生と連絡を取り合い教案を作ったりするところから始まりました。何もかもが初めての状況で教壇に立ち、自分の作ってきた教案をもとに授業を進めましたがうまくいかないことも多く、自分の力のなさに情けなく思うこともよくありました。しかし丸山先生や台湾の担当の先生にアドバイスを頂き、何度も教案を修正しながら授業を作り上げていくことはとても充実感があり、やりがいを感じました。最終日に送別会がありましたが、私が担当した授業の生徒さんも来てくださり、私の拙い授業を「楽しかった」と言ってくれて、本当に台湾に来てよかった、このプログラムに参加してよかったと思いました。

また、私たち実習生のサポートとして日本語学科の生徒さん数名がチューターとして台湾のいろいろな場所に案内してくれたり文化を教えてくれたりしました。言葉の通じない国で、非常に親切に私たちを気遣ってくださり、とても心強かったです。チューターだけでなく他の生徒さんや大学外の方々もとても親切で、助けていただくことが本当に多く、とても感謝しています。生徒さんの何名かとは現在も連絡を取り合うほど仲良くしてもらって、日本語指導としても国際交流としても非常に有意義な 10 日間を過ごすことができました。

II. 参加希望者へのアドバイス

まず日本で教案づくりなど準備をたくさんしていくと思いますが、授業はあまり思い通りにいかず、台湾到着後も何度も修正が必要になると思います。しかし、日本で作った教案が無駄になることは決してなく、それを基準によりよいものができるはずですので準備をしっかりとしていくこと、予定通りにいかなくても焦らず臨機応変に対応するゆとりを持つことが大切だと思います。慣れない土地でストレスもたまるとは思いますし、自分を追いつめてしまう人もいるかもしれませんが、結局は「大丈夫」と自分で信じないとどうにもなりません。静宜大学の人は優しい人ばかりですので一所懸命努力している人を必ず助けてくれます。完璧な授業を求めるよりもいかに生徒を見て楽しんでもらうかが大切だと思います。そして、生徒に楽しんでもらうにはまず自分が楽しむことです。いろいろな発見をして楽しむことが力になると思います。頑張ってください！



M.O 日本語日本文学科 2 年次生

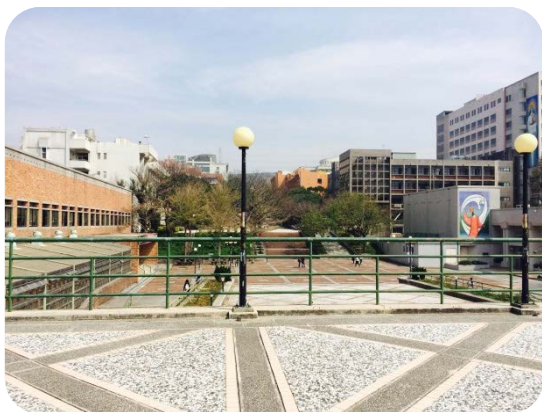
参加期間：2016 年 3 月 1 日～3 月 10 日（10 日間）

I. プログラムについて

台湾の台中市にある静宜大学の日本語学科の授業で日本語教育実習をします。

現地に行く前に、丸山先生に見てもらいながら自分が担当する授業の教案（私は 2 つでした）を作成し、その後静宜大の先生にも教案をみてもらいメールでやりとりをしました。台湾に着いてから担当の先生と打ち合わせをしました。10 日間のうちで 4 回も授業をさせてもらい、とても良い経験になりました。最初は戸惑いや不安がありましたが、徐々になくなっていきました。

10 日間ほぼ毎日一緒にいてくれたチューター（日本語学科の学生）や学科の先生はとても親切で、本当に最初から最後まで面倒をみてもらいました。日本語を教えるということだけでなく、台湾の生活、文化、学生の様子などいろいろなものを見て知ることができます。



II. 参加希望者へのアドバイス

日本語教育実習について、私は台湾に着いてから日本で作った教案、特にパワーポイントを大きく変更しました。準備していたものでは足りなかったので、空き時間に修正をしました。パソコンは静宜大学で借りられますが、自分のものがあると宿舍などで使えるので便利だと思います。

また、担当の先生はクラスの雰囲気や授業の進度・進め方、実習の評価などたくさんのアドバイスをしてくださりました。自信を持ってやれば良いと思います！

生活面について、必要なものは大学内にある生協とファミリーマートでほぼ揃えられると思います。気温について日中は暖かいです、朝晩は意外と肌寒いので、羽織れるものなどはちゃんと持って行った方がいいです。（笑）もし何かあれば、生活面を担当されている先生に相談すれば大丈夫です！（私たちは寒くて布団を一枚追加してもらいました笑）

その他、夜ご飯はチューターに連れて行ってもらい、土日には台中観光などもしました。中国語ができなくても大丈夫です！わからないことが聞いたら何でも答えてくれると思います！LINE を交換して私は今でも連絡を取っています！

